



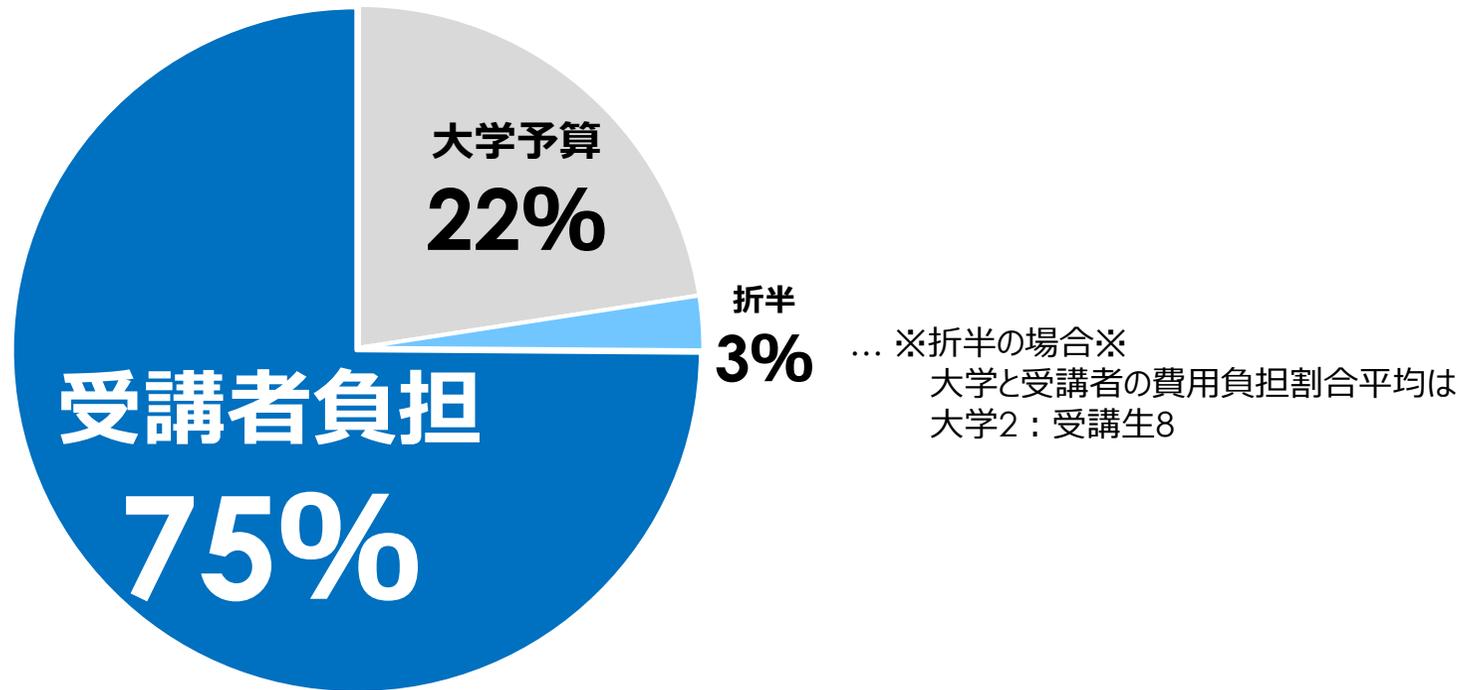
入学者育成研究会
自ら学び続ける学生を育てる

受講者負担で実施する際の よくある懸念事項と対応策

株式会社 進研アド
入学者育成研究会 運営本部
2024/7/19

入学前教育の費用負担状況

<入学前教育の費用負担状況>



→ 入学予定者から受講費用を頂く「受講者負担」で実施するケースが多い。

懸念点①

保護者から良いイメージを持たれない
受講案内することで**クレームにつながる**

懸念点②

任意で案内しても**受講申込率は低い**
入学予定者の**全員受講が実現しない**

- 受講者負担で入学前教育を実施することに対して、「家庭からのクレーム」「受講案内の難しさ」が懸念として考えられる。この不安から、学内で受講者負担の理解が得られない場合も多い。

<受講者負担に対する保護者からの反応>

弊社窓口へのよくあるお問い合わせ トップ5	
1	受講はまだ間に合いますか？
2	課題提出締切に間に合わなかったのですが大丈夫でしょうか？
3	申し込みは必須ですか？
4	お電話をいただいていた（課題未提出TELへのコールバック）
5	教材がまだ届きません。

※「任意」受講の場合、「申し込みは必須ですか？」といった質問はある。

- 保護者からクレームをうけたことはない。
受講者負担でご案内する際に、重要なのは受講案内の「内容」。

＜受講者負担に対する保護者からのリアルな声＞

保護者の心理的ハードル面

└前提として、子どもの入学予定先からの推奨であれば、保護者としては、そこに投資するハードルは低くなりやすい。

└保護者としては子どもがちゃんと力をつけてほしいので、入学前教育の効果※が分かりやすいと良い。

※受講前後の効果や受講した先輩の声など。

受講負担金額面

└5万円以上だと、さすがにためらうが、子どもに受講したい意思があるのであれば、3万円以下は許容範囲。

(むしろ、合格から入学までの期間、子どもが遊びまくってしまい入学後に影響が出るのを避けたい。)

アフターフォロー面

└申し込んだは良いが、提出できない・長続きしない点も心配。

申込後、アフターフォローとして、プログラム側から継続的に褒めて励まして提出を促すなどがあれば、親としては安心。

└子どもの積極性や主体性に不安がある場合、勉強がちゃんと進められるのか、必要なことはちゃんとできているのか、気づいたらできていなかった、という状況になるのは避けたい。本人以外に見ていてくれるという安心感は重要。

➔ 保護者としては、子どもがスムーズな大学生活を送ることを重視し、本人の意思を尊重して受講申し込みするか判断することが多い。

懸念点① 受講案内することでクレームにつながる
懸念点② 任意で案内しても受講申込率は低い

【ご参考】保護者が子どものために支出した教育費

＜保護者が支出した1年間・子ども一人当たりの学習費総額＞

表1 学校種別の学習費総額

(円)

区 分	幼 稚 園		小 学 校		中 学 校		高等学校(全日制)	
	公 立	私 立	公 立	私 立	公 立	私 立	公 立	私 立
学 習 費 総 額	165,126	308,909	352,566	1,666,949	538,799	1,436,353	512,971	1,054,444
公私比率	1	1.9	1	4.7	1	2.7	1	2.1
うち学校教育費	61,156	134,835	65,974	961,013	132,349	1,061,350	309,261	750,362
構成比(%)	37.0	43.6	18.7	57.7	24.6	73.9	60.3	71.2
公私比率	1	2.2	1	14.6	1	8.0	1	2.4
うち学校給食費	13,415	29,917	39,010	45,139	37,670	7,227
構成比(%)	8.1	9.7	11.1	2.7	7.0	0.5
公私比率	1	2.2	1	1.2	1	0.2
うち学校外活動費	90,555	144,157	247,582	660,797	368,780	367,776	203,710	304,082
構成比(%)	54.8	46.7	70.2	39.6	68.4	25.6	39.7	28.8
公私比率	1	1.6	1	2.7	1	1.0	1	1.5

(参考) 公立・私立学校総数に占める私立学校の割合、及び公立・私立学校に通う全幼児・児童・生徒数全体に占める私立学校に通う者の割合 (令和3年度)

幼稚園 (学校数:66.9% 園児数:87.2%) 小学校 (学校数: 1.3% 児童数: 1.3%)

中学校 (学校数: 7.8% 生徒数: 7.7%) 高等学校(全日制) (学校数:28.2% 生徒数:34.4%)

※ 高等学校(全日制)の生徒は、本科生に占める私立の割合である。

(資料) 文部科学省「令和3年度学校基本統計(学校基本調査報告書)」

**高校生(公立)の保護者が子どもに「学校外活動費(家庭教師費・学習塾費など)」で支出した費用は
年間で203,710円→一か月あたり約16,975円**

➔ 年内選抜合格後11月～3月の5か月間だと、
学校外活動に約84,875円の教育的支出をしているのが平均となっている。

<受講申込促進の実施割合>

受講者負担・申込制で案内している学部のうち

9割以上

※未申込者の約3割が「案内に気がつかなかった」という理由。十分に「認知」をさせ、受講申込の判断をさせることが重要。

<受講申込促進施策>



→ 合格通知に案内を入れただけでは、なかなか認知が難しいため、複数回にわたり、受講目的や効果をしっかり伝えることが多い。

受講申込率向上のポイント2点

① 気づかせるためのリマインド

→未申込の理由で最も多かったのは「気がつかなかったから」

② 保護者への「意義」と「効果」の訴求

→「受講効果」は具体的なエビデンスが必須

→「意義訴求」は教員名義での発信が有効

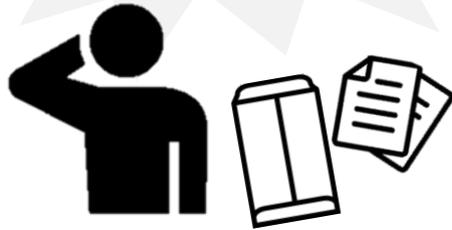
受講申込率向上のポイント① 「気づかせるためのリマインド」

懸念点① 受講案内することでクレームにつながる
懸念点② 任意で案内しても受講申込率は低い

【未申込者の理由】

「プログラムの案内に気がつかなかった」
33.6%

入学前教育の案内書に
そもそも気がついていない...



十分に「認知」をさせ、
受講申込の判断をさせることが大事

＜弊社によるサポート＞

●スクーリング動画

POINT ① 大学での学びと高校までの学び「学び方」が大きく違う!!

POINT ② 入学までの過ごし方が大学生活の大きな分かれ道に!!

主体的な学ぶ姿勢を身につける
最初のステップに

●受講案内はがき

重要なお知らせ
入学準備教育
「学習サポートプログラム」で、
入学準備はできますか?

入学前教育で、学生生活を好調にスタート!

どんな教材?

1 入学前教育の教材
2 入学前教育の教材
3 入学前教育の教材

弊社ノウハウで受講申込促進を実施した場合
申込促進無 36.5% → 申込促進有 87.6%

※22年度新規ご導入大学実績

➔ 納得度の高い受講案内と複数回の受講申込促進を行うことができれば、
受講者負担申込制でも高い申込率につながる。
※募集時点の事前告知が無くとも、受講申込率を高めることは可能。

懸念点① 受講案内することでクレームにつながる
懸念点② 任意で案内しても受講申込率は低い

受講申込率向上のポイント② 「保護者への意義と効果の訴求」

<受講者負担でご案内している大学の保護者案内文書>

- ・入学前教育の実施目的やねらい
- ・入学前までに身につけて欲しいこと
- ・先輩の声や受講成果

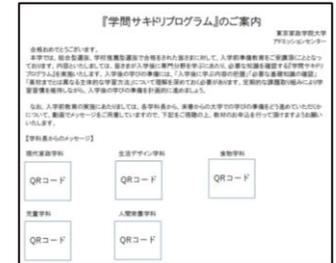
➔ 入学前教育をご案内する際に、受講のねらいや効果を伝えることで、
安心感・期待感を持って頂き、受講申込率も向上。

<大学・学校による工夫例>

● 大学案内・入試ガイド



● 受講案内書



※参考
東京家政学院大学様 受講案内書
(Between情報サイト)

入学前教育に取り組む目的や実施効果を
・複数回にわけて丁寧に訴求
・教員からのメッセージなど工夫も施す
90%以上の高い受講申込率

【ご参考】受講者負担で全員必須で案内したい場合

＜大学・学校による工夫例＞

●前期学納金とあわせて納入

2. 実施期間

入学手続確認後、順次発送 ～ 令和×年3月中旬頃

3. 実施方法

本学の指揮監督の下、外部業者（ベネッセグループ(株)進研アド）と協力して実施します。

4. 受講料

×××円（税込） 入学手続時に前期学納金と併せて納入していただきます。

●入学諸経費と同タイミングで納入

以下の申込書として、合計46,000円を納入
 2023年2月実施の申込書は、上記1と受講者サポートプログラム費、総額合計を納入
 入学手続は、入学手続開始に基つて所定の期日（申込書の印刷日付前）までに、入学手続納入金（入学費及びその他諸費用）を一括納入し、
 手続費用を申込金額まで返付していただく必要あり。入学手続期日までに入学手続を完了しなければ、入学の意思がないものと判断します。

＜参考：大学と受講者の折半による実施＞

●受講案内書

4. 受講料

受講生負担 円(税込)(大学が一部費用負担をしています)

5. 申込方法

- ① 同封の払込票を使って受講料をコンビニエンスストアでお支払いください。
- ② 同封の「入学前準備教育プログラム受講申込書」に必要事項を記入してください。
- ③ 払込票の払込受領証を必ず受講申込書(別紙)に貼って、同封の返信用封筒(切手を貼付)に入れ、郵送にてお申し込みください。

- ④ 申込期限日は 11月20日 です。3日前(土日除く)を目安に、余裕を持ってご投函ください。
 ※北海道、沖縄、離島にお住まいの方はそれ以上の余裕を持ってご投函ください。

◆お申し込みにあたってのご注意点◆

- *受講のお申し込みは、受講申込書(別紙)の受領をもって受付完了となります。
 受講料をお支払い後、教材のお届け先を明記の上、受講申込書(別紙)を必ずお送りください。
- *受講申込書(別紙)の到着が申込期限日を過ぎますと、次の教材のお届け日は 12月25日 となります。
 教材のお届け日が 12月25日となった場合は、上記の実施時期とは異なるスケジュールにてご受講いただけます。

以上

「大学が一部費用負担をしています」など支援の姿勢を明記
 大学と受講者の費用負担割合の平均は大学2：受講者8

※大学様が集金し取りまとめて納入頂くケースと、差額を受講生が収納代行にて支払うケースがございます。

➔「学費」「教材費」の一部として、全員へ受講を必須化する場合も。
 大学様で一部予算を捻出できる場合は、
 折半も受講者負担全員実施に近づけるための有効な案内方法のひとつ。

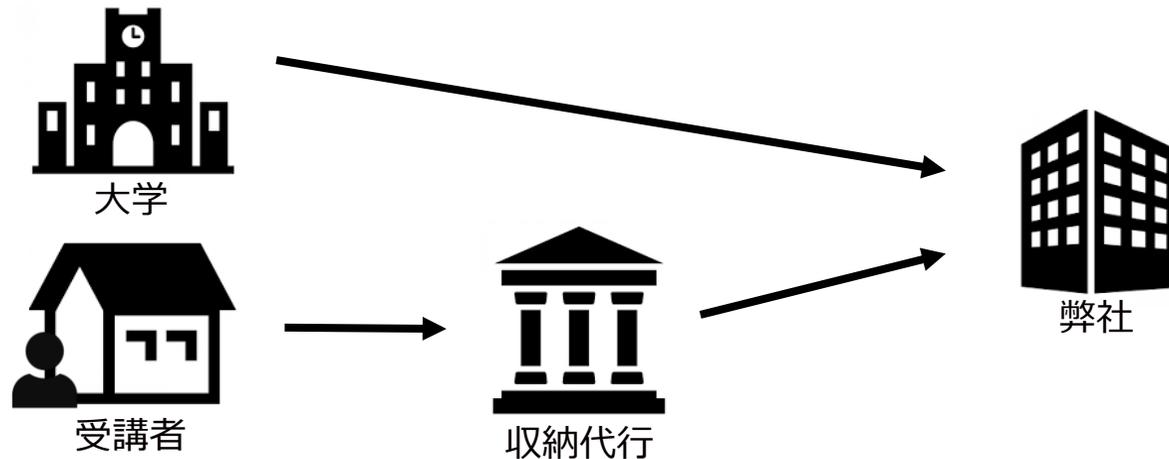
【ご参考】弊社における折半によるお支払いの仕組み

① 大学様が集金し取りまとめてお支払い頂くパターン



受講者が、入学を決めるタイミングで大学様に学生負担分の費用をお支払い。大学様より差額とともに弊社にお支払いいただく。

② 受講生が収納代行にて支払うパターン

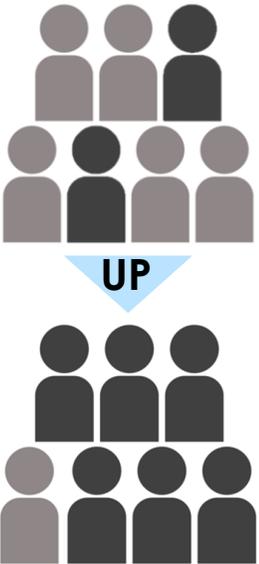


受講者が受講申込サイトを経由し、学生負担分の費用を収納代行でお支払い。大学様は別で差額を弊社にお支払いいただく。

→ 貴学のご要望に応じて、どちらのパターンも可能です。
ご家庭への負担をできる限り軽減したい場合は、①を推奨。

※弊社の場合、収納代行を使用する場合とそうでない場合で費用が異なります。

入学予定者全員が受講することの価値

受講人数	学生のメリット	指導教員のメリット
	<p style="text-align: center;">入学前に不安を軽減し、 スムーズな大学生活を送れる</p> <ul style="list-style-type: none"> • 大学で学ぶ目的や将来の目標があり、学習意欲が高まっている • 大学での学修姿勢を理解しているため、主体的に学ぶ習慣が身についている • 自分の苦手分野を理解し、克服しようと努力することができる 	<p style="text-align: center;">学ぶ目的があり主体性の高い 入学生が増え、指導しやすい</p> <ul style="list-style-type: none"> • 入学後にどのような知識やスキルが必要か理解している学生が増える • 指導レベルが合わせやすくなり、授業全体の教育効果が高まる

→ 自ら学び続ける学生を育てる入学前教育を、より多くの入学生に受講頂くことで、入学後の指導負担の軽減につながる。

受講者負担で実施している大学様の実施事例

【事例】東京家政学院大学：受講者負担申込制で受講申込率を向上

背景

- ・年内入試入学者に対して、映像視聴中心の外部教材を希望者受講+独自課題を行っていた。
- ・任意であるため、**受講申込率が30%程度**で、新入生の統一された受講データはなかった。

取り組みのポイント

●全学科の入学者が取り組みたくなる入学前教育プログラムに変更

入学後の学びをイメージできるプログラムにして、大学の学びに対する不安を解消。統一基準のデータ収集を行いたいという狙いがあった。

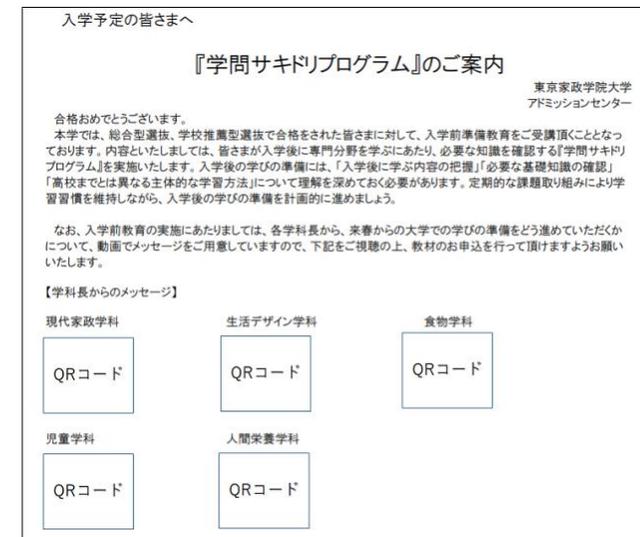
●受講案内書にて入学前教育の受講推奨を強調

できるだけ多くの年内入試入学者に入学前教育を受講させるということを入試広報部署主導で学内で意思統一。

その上で、**各学科長からのビデオメッセージ動画**を案内書にQRコードで掲載。継続した学習習慣の意味と、入学後の学びへの期待を持ってもらえるようなメッセージを訴求することで、受講率向上を狙った。

成果

- ・**受講申込率は全学科平均で96.1%になり、ほぼ全員受講となった。**
- ・入学前の時点で、学生がどういう思いで受験したのか、入学後に期待していることが何かという、学生の意識もあわせて把握できた。



入学前教育受講対象者に送ったチラシ（QRコード部分を加工）

【事例】星槎道都大学：入学前教育の「全員受講×受講者負担」実施の工夫

背景

対象者全員への受講必須化と受講者負担の両立にあたり、**受講費用に対する保護者の納得感をどう高めるか**が課題となった。

取り組みのポイント

“入学手続き時に入学金の他に納入する諸費用”として**入学前教育プログラム実施費用を明記してHP上で予め案内。**

入学手続き時および学費等納入金

1. 入学金 210,000円

※ 入学手続き時に入学金の他に納入する諸費用。

- ① 星槎道都大学保護者会費、星槎道都大学体育・文化活動後援会費、星槎道都大学同窓会費、学生教育研究災害障害保険料、学研災付帯賠償責任保険料の合計57,730円を納入。
- ② 2022年2月末迄の合格者は、上記①と学問サキドリプログラム費用20,000円の合計77,730円を納入。

成果

保護者からの**クレーム発生はなく**、“全員受講×受講者負担”での入学前教育プログラム実施を実現した。

受講者負担で受講した学生からの声

費用負担への対応：受講者負担で受講した学生からの声①

受講前と受講後で学生の不安は解消され、 受講者に申し込んで良かったと感じて頂いている。

● 学問サキドリプログラム受講者(受講者負担)のアンケート回答結果

【受講前】入学に対する不安・心配の声

- ・勉強方法・大学の**学習スタイル**が分からない。
- ・勉強しなきゃとは思っているがなかなか出来ない。
- ・自分の学部の専門的な知識がまだ全くないので、**これから覚えていけるかが不安**です。
- ・高校まで受け身で学習してきたため、**大学での学びに向けて今後どう動くべきか分からない**。
- ・今後の学びの中で何が大事になるか分からない。
- ・**何から取り組むべきか分からない**ため、**入学前までにせめて自分の苦手科目は知っておきたい**。

【受講後】取り組みを通しての気持ち

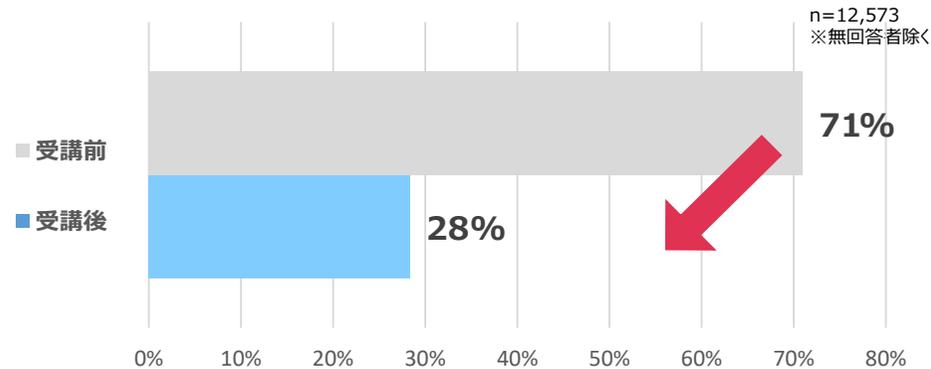
- ・大学での学びが高校までの数学・英語も使うことが分かったから、**入学前までに高校までの復習を行いたい**。
- ・入学前に自身の**苦手な分野を知ることが出来た**から、**入学に向けて良い準備をすることが出来た**。
- ・漠然とした「不安」の中で何もしてなかったため、**今回勉強する機会を与えてもらえて本当に良かった**。
- ・今まで学んできたことでも十分に大学の授業に活かせることが分かって**少し不安が解消された**。
- ・調べ学習等、主体的に学ぶ機会があったので、**入学後の学生生活でも継続していきたい**。

費用負担への対応：受講者負担で受講した学生からの声②

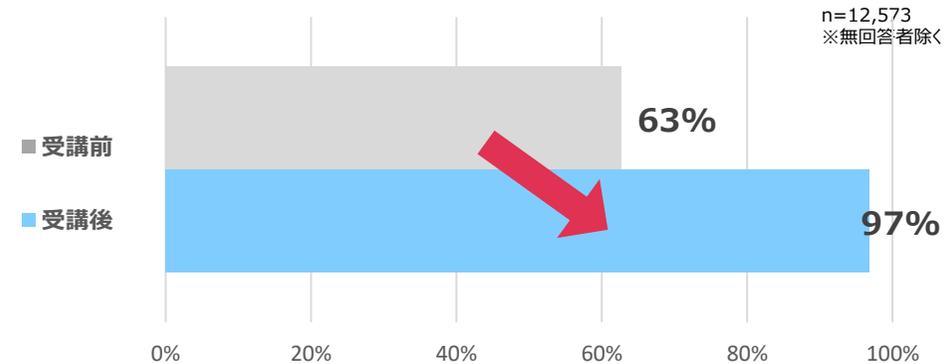
受講前と受講後で学生の不安は解消され、 受講者に申し込んで良かったと感じている。

● 学問サキドリプログラム受講者(受講者負担)のアンケート回答結果

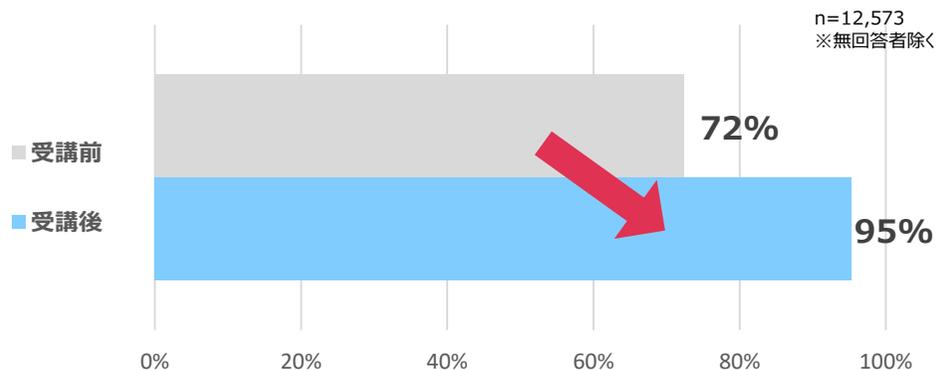
入学後の学習に対して不安を感じている



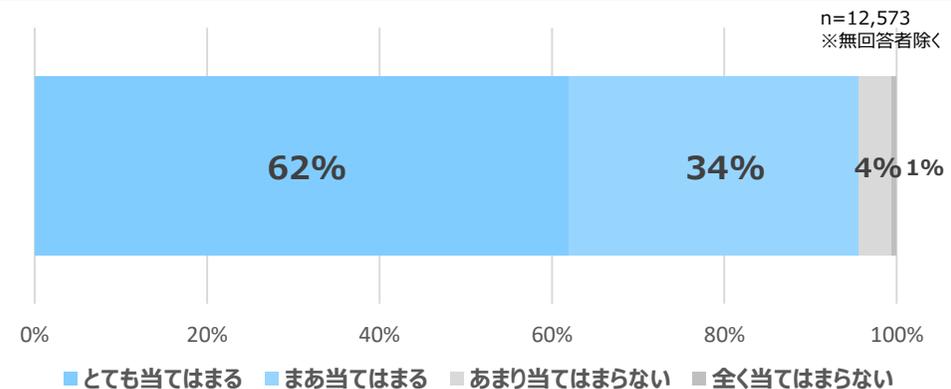
大学・学校での学びに必要な知識やスキルがわかった



大学・学校でどんなことを学ぶのかイメージがわいている



何を学習したらよいか分からなかったので、このプログラムがあってよかった



進研アドでは、大学様のお悩みに合わせた情報提供やご支援を行っております。
ご相談等ございましたら、お伺いしている担当に直接ご連絡いただくか、
以下までお気軽にご連絡ください。

【お問い合わせ先】

株式会社 進研アド 教育事業本部
入学者育成研究会 運営本部
〒163-0414
東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビルディング
【MAIL】 nik_info@shinken-ad.co.jp
【HP】 shinken-ad.co.jp